

今日は、一月五日。明日は六日。二月六日は語呂合わせで「ふろ」となるので、風呂の日かと思いきや、風呂（ふろ・ふうろ）という、茶道具の連想から「抹茶の日」なんだそうです。「ふんぶく茶がま」のお話を知っていますか。タヌキが化したのが「茶釜」で、茶釜を沸かす道具が風呂です。

「抹茶」というのは、松の葉で作ったお茶のことではなく、緑茶の葉を細かくして粉にしたものことです。抹茶といえば、抹茶味のアイスクリームや飲み物などもあります。

今から十数年以上前は、抹茶の代わりに「蚕紗」さんさ・さんしゃ」という漢方薬で緑の色を出していました。蚕紗は、銅クロロフィロルとも言われ、原料はなんと蚕のフン。漢方薬にもなるくらいだから、フンと言っても無害ですが、少しビツクリでしょう。

昆虫からとったものを利用して、色を付けているものがあります。チョコレートやかまぼこ、イチゴ味のかき氷のシロップ、ソーセージなどの、赤やピンクの食品の成分表に「ラック」とか「コチニール」と書いてある場合、使われているのは、「カイガラムシ」。ラックカイガラムシやコチニールカイガラムシという虫です。「ラック」の方は近頃あまり見かけませんが、「コチニール」の方は結構発見できます。ラックカイガラムシはインドや中国、東南アジアで捕れる虫。コ

チニールカイガラムシは、メキシコ原産の虫。ウチワサボテンの汁を吸いに来る三ミリくらいの雌を捕まえて、赤い色素をとります。



グローバルエクスカージョンで小笠原に行った五・六年生は覚えているでしょうか。小港海岸という所に出かけたはずですが、多分シールカヤックで行ったか、夜に夜光虫を見に行つたのではないのでしょうか。小港海岸は星のきれいな場所としても有名で、海岸のそばを流れる八ツ瀬川は、流れが穏やかで、空一面の星が川面に映るようなすてきな所です。

明治の頃、この川の下流のあたりに何百本ものウチワサボテンを植え、船で運んできたコチニールカイガラムシを育てようとしたようですが、カイガラムシ君は台風に吹き飛ばされて全滅。作戦は失敗に終わったようです。

虫の話をしてきましたが、「虫」は一年生で習う漢字。酸素、酸性の「酸」は五年生で習う難しい字。その「虫」と「酸」を使った「虫酸が走る」という慣用句があります。「虫さんが走る」と読まずに「むしろが走る」と読みます。虫酸は、「胃液」のこと。消化を助ける胃液が何かの理由で逆流して口まで来ると、酸っぱくて、とても嫌な感じがします。この様子から、「とても不快な様子」を表す時に使う言葉です。

電車、バスの車内や通学路で、「虫酸の走る小学生だ！」などとご指摘を受けないように注意して欲しいものです。

四月から目白の校舎に移ります。慣れない通学路の登下校も十分注意してほしいところですが、慣れて気が緩んでからの方が怖い。

先週の土曜日、七十七回生の入学オリエンテーションがありました。新一年生の保護者の方々に、ご自分のお子様だけではなく、虫酸の走るような立教生を発見した場合、遠慮なく注意してくださいるようにお願いしました。腹の虫がおさまらないような、虫酸の走る立教生を発見した際は、「私個人としては許しても、あなたの虫酸が走るような行為のために皆が迷惑をしています。立教ファミリィとしての誇りを失いたくないので、断固注意します。」と、おっしゃって、ガンガンご注意ください。と、お願いしてあります。

嫌な思いをしつつも、立教ファミリィの名譽のために、あえてご注意をしてくださっているというのを肝に銘じて、無視したり、逆らったりは、決してしないように。あまりにひどい場合は、名前を尋ねてください。名前を言わないようなら、「帽子をとりなさい！」と言って名前を確認したら、教頭先生に連絡してくださいと、お伝えしておきます。虫酸が走るような行為のご指摘をいただかないよう、今日からしっかり頼みます！

(立教小学校校長 田代 正行)